

第十回

最先端医療イノベーション

定例セミナー

Center of Medical Innovation and Translational Research

「医用画像に基づく骨関節3次元動態計測法と臨床応用（仮）」 山崎隆治 准教授（埼玉工業大学 工学部 情報システム学科）

骨関節の3次元動的な運動情報を正確に把握することは、様々な関節疾患の診断・治療や手術計画などを行う際に有用である。特に、術後人工関節の3次元動態解析は、精密な関節機能評価に加え、手術手技の評価や最適な人工関節を開発する上での基礎データとなり、臨床的にも重要となる。本講演では、これら関節動態計測の臨床的意義について述べ、3次元動態計測・解析を実現するためのX線イメージングや画像処理技術について言及する。また、実際の臨床における評価方法、3次元解析結果やいくつかの応用例を紹介する。

「アジア人の生活様式を可能にする人工膝関節の開発」 富田哲也 寄附講座准教授（運動器バイオマテリアル学寄附講座）

超高齢化社会を迎え、末期変形性膝関節症に対する人工膝関節置換術は増加の一途をたどっている。人工膝関節置換術は欧米を中心に開発発展してきた手術である。除痛効果に優れた手術とされているが、近年社会的に術後再建膝関節機能により高い機能を求める傾向がある。日本を中心とするアジアでは欧米とは異なりその生活様式より正座など深屈曲動作を安全に可能とする関節が求められている。深屈曲動作の生体内動態に関して当教室で開発したシステムにより明らかとなった最新の知見を概説する。

座長：菅本一臣 寄附講座教授
（運動器バイオマテリアル学寄附講座）

2016.11.15（火）
18:00～19:00

於 最先端医療イノベーションセンター棟
1F マルチメディアホール



お問い合わせ先
最先端医療イノベーションセンター事務室
06-6210-8201
i-sentaninobe@office.osaka-u.ac.jp